

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3年	2	必修
担当教員			
竹上 健			
B (経営学科)	S (専門科目)	SM (演習)	401 (専門ゼミ・卒業論文等)

授業のねらい (概要)	卒業研究に向けて、教育工学・情報処理関連教育を研究テーマとする。このため、映像編集技術の修得や情報処理技術を活用した教育に取り組むことになるが、経営学研究法では、外国人のための日本語学習支援として、情報処理技術を活用した海外母国在住の日本語学習者への遠隔学習支援に取り組む。単に情報機器の操作を行うだけでなく、日本語学習者への効果的な日本語学習支援についての検討も行う。
授業計画	<p>1 [遠隔] 経営学研究法について (授業目標、成績評価の方法など)</p> <p>2 [遠隔] ベトナムの協定校についての学習</p> <p>3 [遠隔] 留学や労働のために日本に在住するベトナム人の状況</p> <p>4 [遠隔] ビデオ通話ソフトに関する知識収集と利用の実状調査</p> <p>5 ビデオ通話ソフトの選定とインストール</p> <p>6 ビデオ通話ソフトによる1対1でのビデオ通話</p> <p>7 ビデオ通話ソフトによる1対多数でのビデオ通話</p> <p>8 ベトナムの協定校の学生との遠隔ビデオ通話①</p> <p>9 [課題] ベトナムの協定校の学生との遠隔ビデオ通話②</p> <p>10 協定校の日本語学習者への日本語学習支援を目的としたビデオ通話①</p> <p>11 協定校の日本語学習者への日本語学習支援を目的としたビデオ通話②</p> <p>12 [課題] 協定校の日本語学習者への日本語学習支援を目的としたビデオ通話③</p> <p>13 日本語学習のための効果的な学習方法の検討①</p> <p>14 [課題] 日本語学習のための効果的な学習方法の検討②</p> <p>15 経営学課題研究に向けた経営学研究法の活動のまとめ</p>
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</p> <p>3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力</p> <p><b>【身に付くスキル】</b> 生涯学習力・情報活用能力</p>
到達目標	<p>①大学生として自主的学習意欲を向上させ、総合的な能力の育成に努められる。</p> <p>②ビデオ通話ソフトを活用して、海外の日本語学習者とビデオ通話ができる。</p> <p>③海外の日本語学習者の日本語理解度に応じた日本語会話ができる。</p> <p>④海外大学の日本語授業において日本語学習支援の活動ができる。</p> <p>⑤自らの体験に基づいて考察を行い、経営学課題研究の学修につなげることができる。</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	翌週の授業のはじめに課題などを確認しながらフィードバックを実施。
履修上の注意	<p>・経営学研究法は、グループ活動やゼミ生全員が協力して行うことになるが、中心となって行う演習の具体的なテーマは個人ごとにすべて違ったものである。あらかじめ、本人が努力しない限り結果が得られないことを自覚しておくこと。</p> <p>・学習量、作業量などが多くなるので、授業以外の時間を活用する必要がある。このため、自己のスケジュール管理を十分に行い、準備不足などを起こすことが無いよう努めること。</p>
成績評価の方法・基準	<p>①毎週の演習課題の対応状況(25%)、ビデオ通話での対応状況(25%)、日本語学習支援に関する活動状況(25%)、経営学研究法の活動のまとめ(25%)の結果で総合的に評価する。</p> <p>②毎週の演習課題の対応回数が80%に満たない者、ビデオ通話ソフトについて学習を行わない者、海外に日本語学習者とビデオ通話を行わない者、日本語学習支援について活動を行わない者、経営学研究法の活動のまとめを行わない者には、単位を認定しない。</p>

教科書	特に使わず、電子教材・課題プリントを配布する。
参考書・教材	【参考書】自らが検索・収集することとするが、必要に応じて紹介する。
備考	<p>2020年度は、第9回、第12回、第14回を課題研究として学修する。</p> <p>第9回「ベトナムの協定校の学生との遠隔ビデオ通話②」については、「第8回」の対面授業の中で指示を行う。課題は完成した段階で随時メール添付などにより提出するものとする。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第12回「協定校の日本語学習者への日本語学習支援を目的としたビデオ通話③」については、「第11回」の対面授業の中で指示を行う。課題は完成した段階で随時メール添付などにより提出するものとする。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第14回「日本語学習のための効果的な学習方法の検討②」については、「第13回」の対面授業の中で指示を行う。課題は完成した段階で随時メール添付などにより提出するものとする。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>「成績評価の方法」については、基本的に変更は行わず、課題研究として提出した課題についても評価の対象とする。</p>
教員との連絡方法	電子メール、LINE（アドレス等は初回の授業で通知。）